

あとがき

今回の展覧会は山田正亮の新作油彩、ドローイングの発表である。新作の油彩の展覧会は1983年以来で3年振りである。

カタログのテキストは東野芳明さんにお願いし「山田正亮—Eの非劇」と題する論稿をお寄せいただいた。厚く御礼申し上げる。

山田正亮さんの作品は前回発表の展覧会の作品と比べると一層自由になったのを感じる。分割の枠組みのラインは前回すでに動きが出ていたが、今回はさらに一層自由になり、画面の内部の枠組みのラインは痕跡を止めるかたちとなってきている。色調は従来からの赤、黄土色、ブルー、グリーンが主体をなすが、今回は美しいグレーの色彩が主調の作品もみえる。ドローイングはますますその切れ味が見事で明快となってきた。描くよろこびがダイレクトにわれわれに伝わってくるのは楽しい嬉しいことである。そしてそのよろこび、たのしさを抑制しようとする力が働く。そこに知的な真のリリズムが生れる。今回の山田正亮の作品を見て美しいと感ずるのはそのせいだ、と私は思っている。

最後に、画廊改造について一言申し述べる。当画廊もこの銀座の第2朝日ビルに京橋から移転して来て以来4年になる。その間に年々作品、書籍カタログ等も増え、管理上限界に達したこともあり、この夏休みを利用して画廊の改造を行った。天井の高さを利用して収納スペースを増やし、いささかクタビレのみえたじゅうたんも新しく張り替え、壁面も塗り替えた。展示スペース、壁面はほぼ以前と同様で変わらない。

改造といえば画廊のスペースの問題もさることながら画廊経営者の意識の改造の方がもっと重要なのであろう。そのことを意識しつつ、これから秋に向って、気分を新たに、新しい仕事に臨みたいと思う。この山田正亮展はその第一幕となった。この秋はこの後クリスト(10月)ケネス・ノーランド(11月)の展覧会を予定している。

1986年8月23日

佐谷画廊
佐谷和彦

佐谷画廊
SATANI GALLERY

Catalogue no.46-1986